

令和4年度 学校評価計画

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A:そう思う B:ややそう思う C:あまり思わない D:思わない E:わからない

評価 A:十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		結果	校内評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員評価
				A	B					
総務部	広報活動の強化	ホームページのすみやかな更新と、よりきめ細やかな情報発信を継続して行い、充実した広報活動を展開する。	教員(1)・保護者(13)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	教職員100.0% 保護者84.6%	B	●コロナ禍の中、各分掌、各学科での行事ごとの記事作成は十分にできたと考えている。しかし、部活動の記事更新については、保護者の方から「古いまままで全く現状がわからない」という意見もいただいた。次年度の課題としたい。一方で、太鼓部や吹奏楽部のように各種イベントがあることに、記事更新を行っている部活動もある。	○引き続き各科・各分掌においては、各行事ごとの記事作成(HP更新)を実施する。次年度は、部活動単位の記事作成(HP更新)のための改善策を提示したい。	B
	PTA活動の活性化	①PTA総会・PTA評議員会・農業祭でのPTA活動などを通じて保護者との連携を深め、90周年に向けて教員と保護者の相互理解を深める。 ②PTA会報の発行(4月下旬、7月下旬、2月下旬)、ホームページを頻りに更新すること等により保護者への情報発信に努める。	教員(2)・保護者(18)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B					
教務部	自己管理能力の育成	保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をととして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。	生徒(17)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒93.1%	A	●遅刻に対する生徒の意識は高い。しかし、学年が上がると遅刻数が増加する傾向がある。	○生徒指導部、進路指導部、各科などととも学校全体として遅刻しないよう呼びかけると同時に、遅刻の多い特定の生徒に対しては健康相談部の協力も得ながら学校への気持ちを高めさせる事が必要と思われる。	A
	キャリアプランニングの推進	漢字検定や文章読解・作成能力検定、英語検定、農業技術検定の全生徒受験に加え、各科専門資格への挑戦をととして生徒のキャリアアップに努める。	生徒(11)アンケートにおいて1,2年次は今年度取得した資格数が1つ以上の生徒の割合 3年次は3年間で3つ以上の生徒の割合	A	B					
生徒指導部	校外外で積極的な挨拶の実践	生徒会、風紀委員、教員と毎朝の挨拶運動を実施。全校集会、学年会などで呼びかける。	教員(3)・生徒(14)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	教職員70.0% 生徒96.3%	B	●日頃からの呼びかけが大切だと思うが、せっかく挨拶当番を組んでも、立番を忘れていたことが多々あったので、割り当てられた役割が徹底できるようにしたい。	○きちんと毎朝実施できるよう、伝達方法を見直したい。 ⇒ 朝礼プリントの利用、教室への掲示	B
	自転車の交通マナーの強化	全校集会、学年会、自転車小屋などでマナーや命を守ることを呼びかけ、学期に1回の街頭指導において連携しながら注意・指導をしていく。	教員(4)・生徒(16)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B					
進路指導部	生徒の進路実現を達成するための体系的な指導体制の構築	面接指導・小論文指導(3年)、進路ガイダンス・進路希望調査・キャリア・パスポートを効果的に行う。	教員(5)・生徒(29)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	教職員97.3% 生徒91.7%	A	●各プログラム実施が、コロナの影響をほとんど受けることなく計画通りなされた。HPへの掲載ができないことが多かったため、これ以上プログラムを増やせず、既存のものを丁寧に行っていくのがよいと考える。	○本年度の取り組みを継続する。	A
	本校の特色を生かした進路決定	インターンシップ、プロジェクト発表、農場当番、意見発表、鑑定競技などの農業高校ならではの取り組みが、面接ノート(3年)、キャリア・パスポートに適切に記録されるよう促す。	保護者(11)・生徒(25)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B					
健康相談部	保健関連行事の適切な運営と新型コロナウイルス感染症対策の実施	健康診断や健康教育、生徒の健康管理並びに教育環境の維持等に資する各種行事を適切に実施すると共に、新型コロナウイルス感染症予防の啓蒙、対策の支援とその環境整備に努める。	教員(6、7)・保護者(19)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	教職員 97.4% 92.1% 保護者89.1%	A	●関係機関や校内の協力を得て、大きな変更なく保健関連行事を遂行、教育環境の維持が図れたことは大きな成果であった。 ●コロナウイルス感染症に対する対応が変化していく中、基本的な予防対策について県の対応や指導を参考にしながら校内で進めていく。	○感染症に対する対応の変化から、予防に関する温度差が生じることが心配される。基本的な感染対策が習慣化されるよう、周知徹底を図りたい。	A
	教育相談活動の充実	関係教職員と連携を図りながらSCの活用や教育相談委員会・ケース会議等を適宜開催し、生徒の情報共有や支援に努める。	教員(8)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B					
図書部	読書意欲を高める環境づくりに努める	①生徒・教職員による選書を行い、魅力的な蔵書を構築する。 ②生徒図書委員会の主体的な活動を支えるとともに、イベント開催や日常的な展示等により読書活動を推進する。	一冊以上借りた生徒の割合	A	B	58.9%	A	●昨年度43%であったので、厳しい評価基準設定と考えていたが、目標に到達することができた。特に1年生は昨年の37%から70%へと大きく増加した。一学期に1年全クラスで実施した図書館を使った授業(図書館オリ、昨年度はコロナで未実施)の影響も大きいと考える。	○4月当初、入学生全クラスに対して図書館オリエンテーションを行う。 ○今年度に引き続き、入ってみたいとなるような図書館入り口の掲示を継続する。	A
	教育活動への支援の充実を図る	①各教科・学年会と連携して、図書館を活用した授業を支援する。 ②生徒が興味を向け探求を深められるよう、多様な資料を提供するとともに、調べ学習のスキルアップ支援など、情報活用能力の育成に資する。	教員(9)生徒(33)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B					
寮務部	意欲的な学習態度の育成	通常時60分、試験期間90分の学習時間の確保と、個に適した学習環境(食堂、舎室)を提供する。	教員(10)・保護者(16)・生徒(23)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	教職員73.7% 保護者80.0% 生徒71.6%	B	●学習時間に限らず生活全般において、1年生に落ち着きが見られなかったが徐々に落ち着いてきた。	○学習時間はそのまま継続していきたい。	B
	快適な寮生活を目指して、寮内の環境美化の推進	①週番業務により責任感を持った寮生活を送るよう指導する。 ②自治意識を持ち、互いに注意し合える雰囲気をつくる。	教員(11)・保護者(17)・生徒(24)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B					

農場部	研究活動の推進	①実験・実習を積極的に展開する。 ②生徒主体の探究的学習を推進する。	教員(12、13)・保護者(1)・生徒(3、26)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 60%以上	教職員94.2% 88.2% 保護者98.6% 生徒91.9% 94.7%	A	●出雲農林高校発表会は、本校体育館ではあったが、外部審査員による講評も得ることができ、中国大会で最優秀賞を獲得する発表もあった。	○2年次からの地道なプロジェクト研究を進め、更に底上げを図る。	A
	専門科目関連への進路実現	①専門関連への就職指導をより充実させる。 ②自営学科(農林大学校等)への進学指導を強化する。	教員(14)・保護者(11)・生徒(9)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 60%以上	教職員86.8% 保護者91.5% 生徒87.1%	A	●生物資源系の進学や農林大学校系への進学はほぼ横ばいである。土木系公務員は増加しており、堅調に推移している。	○社会情勢の変化を見つつ、専門科目関連事業所が進路選択の一つになるように、日々の授業を展開する。	A
植物科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(15、16)・保護者(9、10)・生徒(14、15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員90.0% 100.0% 保護者79.3% 83.6% 生徒96.3% 96.8%	B	●授業や実験実習を含めた学校生活全般を通して継続的な指導を行う。	○引き続き取り組みたい。	B
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」等、授業の充実を図る。 ②資格取得に向けての意識付け指導を行う。	教員(17、18)・保護者(2、22)・生徒(3、6、11)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員82.4% 70.5% 保護者88.8% 72.3% 生徒91.9% 94.8% 70.4%	B	●資格取得に向けて指導体制の構築と指導方法の改善及び放課後を有効的に活用していきたい。	○ChromeBookを積極的に活用し家庭学習の充実を図りたい。	B
環境科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守を徹底させる。 ②気持ちの良いあいさつや言葉づかい、服装の指導を行う。	教員(19、20)・保護者(9、10)・生徒(14、15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員95.1% 100.0% 保護者79.3% 83.6% 生徒96.3% 96.8%	A	●社会に通用する人材となれるよう、授業や実習だけではなく、学校生活全般を通して指導していく。	○次年度も継続して取り組みます。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業を充実させる。 ②資格取得に向けての指導を強化する。	教員(21、22)・保護者(2、22)・生徒(3、6、11)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員94.5% 100.0% 保護者88.8% 72.3% 生徒91.9% 94.8% 70.4%	B	●他者と協力しながら課題を解決することや、目標に向かって努力するという取り組みを体験させる環境を整える。	○次年度も継続して取り組みます。	B
食品科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(23、24)・保護者(9、10)・生徒(14、15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員90.0% 90.0% 保護者79.3% 83.6% 生徒96.3% 96.8%	B	●評価の平均は89.7%であった。教員・生徒の評価は概ね良好であるが、保護者からの評価は少し厳しい。「挨拶と時間厳守」は学校生活だけでなく、信頼を築く上で大切であることを、生徒みんなに意識してもらえることが課題である。	○すべての教育活動を通して、自ら先に挨拶をしたり時間を守るよう教員側から積極的に働きかけ、気づいた時に見逃さず指導するように心がける。	B
	自ら学ぶ姿勢の育成	「農業と環境」「課題研究」を中心に問題解決型学習の充実を図り、専門教科への主体性と探究心を育てる。	教員(25)・保護者(2)・生徒(3、6)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員100.0% 保護者88.8% 生徒91.9% 94.1%	A	●評価の平均は94.6%であった。保護者からの肯定的な評価はわずかに90%に満たないものの、三者ともに良好な評価結果であった。	○ICT・視聴覚教材・ワークシート等を活用し、生徒たちが日々の学習の中で新鮮な興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組めるよう工夫する。	A
動物科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(26、27)・保護者(9、10)・生徒(14、15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教職員95.1% 95.1% 保護者79.3% 83.6% 生徒96.3% 96.8%	B	●2つの取り組みに対する評価は概ね良好ではあった。しかし保護者の挨拶や時間厳守項目において、評価がAにはならなかった。そのため、継続して指導、声かけを科の教員が中心となって行っていく。	○引き続き、農場当番や総合実習、課題研究の授業の点呼時等に声かけを実施し、生徒へあいさつや時間を守る必要性を指導していく。	B
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」等、授業を充実させる。 ②家庭学習を利用し、専門知識の定着を図る。	教員(28)・保護者(2)・生徒(3、6)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教職員100.0% 保護者88.8% 生徒91.9% 94.1%	A	●2つの取り組みに対する評価はともに良好であった。家庭学習をより充実させる取り組みが必要である。	○専門教科でも家庭学習を充実させていくために、科の教員に定期的に声かけを実施し作成を促す。	A
一年部	基本的な生活習慣・学習習慣の確立	①クラス、授業、学年集会等で物事に見通しをもって取り組むことについての指導を行う。 ②マナトレを中心とした学習へ意欲的に取り組むように指導する。	教員(29、30)・保護者(9、10、20)・生徒(7、14、18)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員92.8% 100.0% 保護者79.3% 83.6% 66.5% 生徒38.3% 96.3% 97.7%	B	●基本的な生活習慣、家庭学習習慣いずれも定着が不十分であることが分かった。特に家庭学習習慣については、教科担当者とも連携しながら学年部全体で継続指導を行っていく。具体的取組事項について再検討を行う。	○課題提出、資格取得、各検定受検への取り組みを促すことで学習習慣の定着を図る。具体的取組事項の再検討を行う。	B
	地域へ視野を広げようとする探究心を持った生徒の育成	専門科目に意欲的に取り組むよう指導する。	教員(31、32)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員95.7% 96.1%	A	●専門科目や課題研究、視察研修等を通して、さらに地域への関心の深化を図り探究心の醸成を図りたい。	○専門各科と連携しながら、生徒への指導を継続する。	A
二年部	社会に通じる人間力とコミュニケーション力を持った生徒を育成する	場に応じた挨拶や言葉遣い、活動や態度、発言や発表ができるように指導する。	教員(33)・保護者(9)・生徒(14)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員84.8% 保護者79.3% 生徒96.3%	B	●生徒の自己評価が甘すぎるように感じるが、1年次に比べると改善が見られる。来年度最高学年となるので、社会に通じる人間力、コミュニケーション力の更なる向上を目指したい。	○研修旅行やインターンシップなどの意義を十分理解させ、社会に通じる人間力、コミュニケーション力の向上を目指したい。	B
	自ら学ぶ姿勢を持ち、志をもって社会に貢献する生徒を育成する。	「SA」「HR活動」ほか担当科目等を通して、資格検定やインターンシップの目的や意義を意識した指導を充実させる。	教員(34、35)・保護者(22)・生徒(11)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員91.2% 83.9% 保護者72.3% 生徒70.4%	B	●資格検定の情報提供やインターンシップの指導など、教員側からは的確な対応がなされていると思うが、目的や意義など生徒保護者に十分伝わっていないという結果が出ているのかもしれない。	○資格検定の情報提供を進捗実現と結びつけたものとなるよう工夫が必要。	B
三年部	最高学年として他の模範となる生活態度を実践し自己管理能力を身につけた生徒の育成	各クラスでの各授業、HR活動、行事を通して指導していく。 様々な場面でふさわしい言葉遣いやあいさつができるように指導する。	教員(36、37)・保護者(9、10)・生徒(14、15、18)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教職員84.7% 94.1% 保護者79.3% 83.6% 生徒96.3% 96.8% 97.7%	A	●総合的評価は90%を超えており目標を達成できた。保護者の評価が生徒・教職員よりも低く、アンケートで「わからない」と回答した割合が2割以上あった。保護者からもわかりやすい内容への変更・改善が必要である。	○保護者アンケートの質問内容を再考する。 ○具体的取組事項を再考する。	A
	進路実現に向け、情報の収集や分析を主体的に行い、進路決定ができる生徒の育成	①週に1度学年会を実施し、生徒の情報交換を充実させる。 ②困り感を抱えている生徒の支援について、健康相談部からの情報提供とアドバイスを受けなど連携していく。	教員(38、39)・生徒(25)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教職員100.0% 100.0% 生徒90.7%	A	●教職員・生徒ともに9割を超える結果となった。学年会で進路部との情報交換が密にできたことが効果につながったと考える。また、進路部と担任との情報共有も密であったため、生徒にも良い影響が出たと思われる。	○具体的取組事項と重点目標の関連性を持たすために取組事項を再検討する。	A
事務部	学校の快適かつ安全な教育環境の整備に努める。	学校教育環境の整備において、緊急性・必要性を考慮して整備するとともに、適切な施設・設備の維持管理に努める。	保護者(14、15)・生徒(34、35)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	保護者90.2% 90.0% 生徒94.3% 84.3%	A	●施設・設備が老朽化している中、全体的に高い評価をいただいている一方、生徒からは修繕が不十分といった評価もいただいている。	○今後とも、生徒からの情報も参考にしながら、早め早めの修繕対応に努めていきたい。	A
	出雲農林高校満足度の向上	教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	保護者(25)・生徒(1)アンケートにおいて「学校生活に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	A 90%	B 80%	保護者84.8% 生徒83.1%	B	●保護者・生徒とも90%を切る結果となった。コロナや諸事案に対しての思いが反映されたのではないかと。 ●引き続き寄せられる声にしっかりと耳を傾け、学校教育活動を行ってきたい。	○全教職員が事件・事故等を未然に防ぐという危機管理意識を持ち、連絡・相談体制の強化や生徒との定期的な個別面談の実施等により、安心・安全な学校のために一丸となって取り組む。	B